

AAPSO 第 11 回大会について（要約）

2018 年 12 月 14 日 田中 靖宏（日本 AALA 代表理事）

片岡 満（北海道 AALA 事務局長）

アジア・アフリカ人民連帯機構（AAPSO）第 11 回大会が 11 月 14 日から 16 日までモロッコの首都ラバトで開かれ、日本 AALA から田中靖宏代表理事と片岡満北海道 AALA 事務局長の 2 人が参加した。大会はモロッコ連帯委員会が政府の後援をえて各国代表を招待するかたちで開かれた。参加は、エジプト、バングラデシュ、イラク、日本、レバノン、モロッコ、ネパール、パキスタン、パレスチナ、ロシア、スリランカ、チュニジア、英国、ベトナム、の 14 カ国の人民連帯組織で、各国から 2～3 人の代表が参加していた。

大会組織委員会は招集にあたって、大会のテーマとして①パレスチナ人民支援②主権国家の分解をねらった動きにどう対抗するか③貿易戦争や核軍拡の動きにどう対応するか、の 3 つを提起。事前の意見提出を求めた。これにたいし、日本 AALA は事前に意見を提出した（別項参照）。

提出意見の要点は、非同盟首脳会議のオブザーバー組織として、非同盟諸国に核兵器禁止条約の批准促進を訴えること、朝鮮半島の平和の動きを歓迎し、南北首脳による板門店宣言と平壤宣言、米朝首脳宣言の 3 つの文書への支持を表表明すること、分離主義との闘いの問題では、個別の項目にふれずに原則をのべるにとどめること、の 3 点で、田中代表は大会でその立場で発言した。

閉会にあたって読み上げられた最終文書にはいずれの記述もなかったため、田中は起草員会に説明をもとめ、説明がなければ採択に参加しないと表明した。これにたいし、書記長および大会組織委員会から、日本の主張はかならず入れるからと誓約があった。後に送られてきた最終宣言には、大量破壊兵器の廃絶を強く求める、朝鮮半島の平和プロセスを支持するとの簡単な文言がはいっただけだった。

AAPS は、今大会の参加国にみられるように、参加組織が減少している。書記局の高齢化、エジプト依存体質、民主的な運営の欠如、過去の反省なさ、など多くの問題をかかえている。しかしそれぞれの国では頑張っている人たちが多く、参加組織代表との間では多くの問題で話が通じるし、協力連帯できる。これまで培った組織との交流は大事な財産でもある。非同盟諸国首脳会議のオブザーバー組織として貴重さもある。そうした多くの側面から検討し今後の参加の在り方を考えていきたい。（以上）

詳細は日本 AALA ホームページの「資料(DATA)」－「AAPSO」をご覧ください。